

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 1 LET'S READ 1 授業例②

F.T. 先生

## 指導計画表

(全3時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■物語のあらすじの読みとり ・作品の背景の紹介 ・文法の復習 ・語句・表現の導入 ・本文の内容把握
2	■物語の内容把握と音読 ・作品における言葉の面白さの紹介 ・語句・表現の復習 ・本文内容の英問英答 ・音読練習
3	■グループでの音読発表 ・語句・表現の復習 ・音読練習 ・音読発表と相互評価 ・まとめ

## 実践例

### 1. 「読み物」教材 Let's Read の活用

中学校英語教科書 *NEW CROWN* には、3冊通して6種類の読み物がLET'S READとして掲載されている。LESSONでのねらいとは違い、それまでに習った学習内容で読むことができ、また、新出単語にも意味が載せてあるので、生徒たちの英文を読むことへの抵抗は少ないものと思われる。1, 2年生の教科書で取りあげている, "Alice and Humpty Dumpty"と"A Pot of Poison"は生徒の興味をひく、楽しい内容であり、文章形式からみても、ぜひとも授業にグループ劇を取り入れたい教材である。一方、各学年の最後に出てくる読み物は、まとまった英文を読んで生徒の読解力を鍛えるのに適しており、また生徒たちに教材を通して、考えさせたい内容となっている。長文問題形式や内容を整理しやすいチャート式のようなワークシートを作成して、生徒に取り組ませると共に、自分の考えを持たせる工夫をしている。

### 2. 中学校英語教科書における 最初の Let's Read

1学年のLET'S READ 1では、生徒たちが本やアニメでよく知っている『不思議の国のアリス』を扱っている。なじみのある物語であり、既習の文法事項で読み進めることができるレッスンである。作者のルイス・キャロルが仕掛けた言葉の面白さや奇妙なキャラクター達、英語の持つリズムの楽しさといった要素をうまく生かすことで、生徒に興味関心を持たせることができる。

### 3. Let's Read1 における授業の実際

#### ①この単元における指導のねらい

ここでは既習の英語表現や文法事項の復習をすると共に、あらすじの的確な読みとり<外国語理解の能力>、登場人物の心情や場面の状況を表現する音読活動<外国語表現の能力>という課題を設定した。( < >は評価内容)

また、物語の内容把握や音読活動では4人グループの活用によって言語活動の充実を図ったり、自作のプレゼンテーションソフトやデジタル教科書を利用することで生徒の内容理解を促したりすることで授業の工夫をした。

#### ②作品の背景と言葉の面白さの紹介

『不思議の国のアリス』は前述したように、生徒にもよく知られた作品であるが、作者や作品が書かれた英国のオックスフォード大学の雰囲気などを生徒に紹介してより興味を持たせるために、授業の始めに教師自作のプレゼンテーションソフトを活用した。生徒は電子黒板に映し出されたおなじみのキャラクターやオックスフォード大学の美しい佇まいを見ながら、英語使用による教師との問答や教師の説明を聞くことによって、物語の背景を知ることができた。

また、2時間目には作品の言葉の面白さを紹介した。まずは、日本では誰もが知っている「きらきら星」、"Twinkle, Twinkle, Little Star"のパロディーである"Twinkle, Twinkle, Little Bat"の歌詞の穴埋めをDVDの視聴によって行った。他に、こちらもマザーグースに出てくる"Humpty Dumpty"は、生徒に歌詞の意味を考えさせた後、一緒に音読して言葉の面白さや英語のリズムに触れさせた。

「きらきら星」"Twinkle, Twinkle, Little Star"

Twinkle, twinkle, little star,  
How I wonder what you are!  
Up above the world so high  
Like a diamond in the sky.  
Twinkle, twinkle, little star,  
How I wonder what you are!

パロディー "Twinkle, Twinkle, Little Bat"

Twinkle, twinkle, little (bat) !  
How I wonder what you're at !  
Up above the world you (fly),  
Like (a tea tray) in the sky.  
Twinkle, twinkle, little bat !  
How I wonder what you're at !

(*Alice's Adventures in Wonderland*, 1865)

(資料 1)

## ③物語のあらすじや内容把握

『不思議の国のアリス』の作品背景と新出語句や表現について学習した後、本文の内容把握を行った。内容を掴む学習内容は、今回は3段階(a)(b)(c)に分けて学習を積み重ねた。どの段階においても、まずは個人で考え、その後4人グループで考えを深め、全体で情報や意見を比較し、共有した。その際に、まず、自分の予想や考えを持ってから、話し合いに参加することに注意させた。

(a) [1時間目]：登場人物、場所(場面)に注意しながら本文を読み、ワークシートの日本語の問いに対する答えを記入する。「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうしたか」を考えながら本文を読み、気がついた箇所に印をつけさせる。

◇「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうしたか」を考えながら読んで、下の問いに答えましょう。(p.76)

- ①アリスは、だれに会いましたか。
- ②ウサギは、何をしていましたか。
- ③アリスは、ウサギを見て、どうしましたか。

(b) [1時間目]：登場人物の心情や状況を考えながら、本文の模範音読を聞く。物語の中で「リズムが良かった箇所」や「内容が面白かった箇所」、「各場面の登場人物の気持ち」について意見を述べ合う。この活動の工夫は2つあり、1つはこの活動は次時の音読活動の伏線を意図している、ということである。即ち、これらの意見交換は、聞き手を意識し、物語の場面や登場人物の気持ちを聞き手によく伝えようとする音読につながるのである。もう1つは、4人グループで、内容把握をする際に言語活動の充実を図ることである。生徒はグループごとに教科書の本文から適する箇所を抜き出したり、物語の状況から推測したりして考えた内容を紙にまとめ、それを黒板に貼り出した。その後、全体で発表し、考えを共有した。

(c) [2時間目]：本文を読むことで、前時に学習した内容を復習すると共に、英問英答のワークシートを行う。この活動は内容把握だけではなく、

英語の問いに英語で答えるという文法力が身につけていなければならないものである。ワークシート(資料2)には語数がヒントとして与えられているが、be動詞と一般動詞の違いや疑問詞を使う疑問文の応答の仕方などに注意をさせたい。また、本文のどこに答えとなる英文があるのかを探すことにも慣れさせたい。

◇ 次の質問に英語で答えましょう。

- ① Who does Alice see first? (4語)
- ② Is the rabbit late? (3語)
- ③ Does Alice follow the rabbit? (3語)

## ④グループでの音読発表と相互評価

2時間目の後半には、3人グループで役割分担(ナレーション役、アリス役、ハンプティ・ダンプティ役)を行い、音読練習を行った。この時、前時に確認した、「リズムが良かった箇所」や「内容が面白かった箇所」、また、「各場面での登場人物の気持ち」に注意を払って、音読をするように指示した。まずは、各自が自分のパートの読み方(表現読み)を考えながら読む。次に、グループで初めから通して読む。その時に、読めない箇所の教え合いや表現読みのアドバイスをし合う。その後、模範音読を聞いて、英語の発音、強弱や間などを確認し、再度グループで音読練習をする。このような流れで音読練習を行った後、3時間目に音読発表を実施した。


グループの音読発表では、教室の前に出てきても、通常の劇とは違って教科書を使用し、読み方や声に注意させた。また、各グループの発表に対して、お互いに評価をすることで、全体で表現読みを共有させた。相互評価はワークシートを使用した。1つは良かった点と工夫点を記述式で具体的に書いた後、「英語の発音や強弱、イントネーション」「音読劇としての表現力」「グループでの協力性」をそれぞれ1点～最高5点まで点数化し、合計点も記載した。全グループが発表した後、一番合計点の高かったグループに☆印をつけ、クラスの集計で☆が最も多かったグループがそのクラスのベストグループ

ブに決定した。一方、個人の振り返りとして、音読発表後の感想を記述式で行い、自己評価も行った。

LET'S READ1 Alice and Humpty Dumpty <音読発表会>  
 ◇各グループの発表を聞いて、感想や評価を書いてみよう。

	良かった点や工夫点など	発音 1~5	表現 1~5	協力 1~5	合計
A					
B					
C					
D					
E					
F					
G					
H					
I					
J					
K					
L					
M					

◎音読発表をしてみよう...



Class( )No( )Group( )Name( )

(資料3)

価することを考えると、3時間で全内容を消化することには多少の無理があったことは否めない。今後も3年間を見通した学習指導計画作成のもと、4つの評価観点を具体的に設定し、生徒に「聞く」「話す」「読む」「書く」という4つの言語技能をバランスよく身につけさせるべく授業の展開を図っていきたい。また、それらの指導の中で生徒一人ひとりの学習意欲が高まっていくような授業を工夫していきたい。

#### 4. 授業実践を通して

学習の流れは、「①つかむ・気づく・見通す→②思考・判断→③表現→④振り返る・生かす」というプロセスがあり、そして、また次の学習へとつながっている。この単元でも、読み物教材を通して、①物語の概要を捉え、②登場人物の心情や場面の状況を考え、③グループで協力して表現読み(劇)を行い、④自分や友達の発表を振り返る、という一連の学習の流れを大切にしている。このように、生徒自身のメタ認知を促す学習場面を設定することができた。

また、前述の通り、この単元の学習のねらいは、既習の英語表現や文法事項の復習をすると共に、あらすじの的確な読み取りと登場人物の心情や場面の状況を表現する音読活動であったが、概ねねらいは達成できた。読み取りにおける3段階の学習は充実した読み取りにつながり、4人や3人のグループ活動は個の学習に深まりをもたらした。一方、3人グループ全てが音読発表をして、相互評価、自己評